

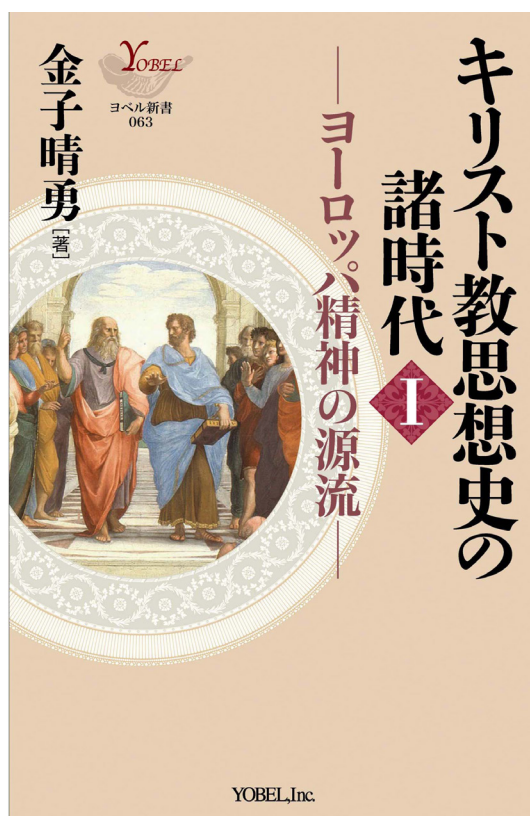


金子晴勇 [著] (ヨーロッパ思想史) [全7巻] 各巻・新書判・平均264頁・1,320円(税込)

キリスト教思想史の諸時代Ⅰ

ヨーロッパ精神の源流

4月8日 再版出来予定



神話の舞台からロゴスの世界へ。 その豊潤な道行きを追跡する！

わたしはヨーロッパ思想史を研究しているうちに、そこには人間の自己理解の軌跡がたねにあって、豊かな成果が宝の山のように、つまり宝庫として残されていることに気づいた。……わたしたちが歴史を研究するのは、ほかならぬ現代を知るために過去にさかのぼるのであって、現在の問題が歴史においてどのように起こってきたかと、問題史的に考察するためである。わたしたちが過去の文化的遺産を摂取して、今日に生きる意義を見だし、文化的価値を創造的に発展させて行くに際し、歴史研究は不可欠の仕事となっている。(本書より)

序論 キリスト教思想史は人間学の宝庫である

- 1 ヨーロッパ思想の三つの柱
「談話室」 源泉志向 ad fontes の意味
- 2 ギリシアにおける哲学の起源
「談話室」 タレスと婦人たち
- 3 神話からロゴスの世界へ
「談話室」 プラトンは観念論者か
- 4 ダイモーン信仰とその批判
「談話室」 ホメロス物語の守護神
- 5 聖書の神秘思想
「談話室」 キリスト神秘主義

6 神の属性としての聖性

「談話室」 「わたしはありてあるものである」の解釈

7 霊性の物語的表出

「談話室」 オイディプスとイエス

8 聖書における神とサタン

「談話室」 アウグスティヌスとミルトンの『失樂園』

9 キリスト教教父の神秘思想

「談話室」 受肉の神学と神化の思想

10 キリスト教と古典文化

「談話室」 新約聖書だけを学べばよいのか

全巻構成 (赤字既刊)

- I ヨーロッパ精神の源流 [好評既刊・再版]
- II アウグスティヌスの思想世界 [好評既刊]
- III ヨーロッパ中世の思想家たち [好評既刊]
- IV エラスムスと教養世界 [好評既刊]

V ルターの思索 [第5回配本・編集中 4月刊行予定]

VI 宗教改革と近代思想 [第6回配本]

VII 現代思想との対決 [第7回配本]

別巻1 アウグスティヌスの霊性思想 [第8回配本]

別巻2 アウグスティヌス『三位一体論』の研究 [第9回配本]

著者紹介 金子晴勇 (かねこ・はるお) 1932年静岡生まれ。1962年京都大学大学院博士課程中退。立教大学助教授、1975年『ルターの人間学』で京大文学博士、76年同書で日本学士院賞受賞。岡山大学教授、静岡大学教授、聖学院大学客員教授。

主な著書：『ルターの人間学』、『アウグスティヌスの人間学』、『ヨーロッパ人間学の歴史』、『エラスムスの人間学』、『アウグスティヌスの知恵』、『キリスト教人間学』、『私たちの信仰』、『ヨーロッパ思想史』、『東西の霊性思想』ほか多数 主な訳書：アウグスティヌス著作集 第9巻、ルター『生と死の講話』、ルター『神学討論集』、エラスムス『格言選集』、エラスムス『神学著作集』、コックレン『キリスト教と古典文化』、エラスムス『対話集』、ほか多数

新書判・256頁・定価1,320円(税込)

定価1,200円(税別) ISBN978-4-909871-27-5 C0216